

1	チーム名 (研究対象領域・教科)	「自立活動の授業づくり」①
2	メンバー	小学部教員 4名
3	チームのテーマ: 「児童が主体的に活動できる授業づくり (実態把握と学習活動の展開)」	
4	対象児童生徒に願う主体的な姿	
	A	・対象となるものに手を出すなど、自分から動こうとする姿
	B	・興味関心のあるものに目を向けたり、手を伸ばしたりする姿
	C	・自分から活動に取り組み、活動を長く維持する姿 (興味関心の深まり)
	D	・制限のある動きの中で、自分の働き掛けにより周囲の環境が変化することに気づき、さらに自分から働き掛けようとする姿
5	研究仮説 対象児童の実態について、コミュニケーション面や学習到達度に着目し、的確に整理することで、児童が主体的に取り組める学習活動の展開につなげることができるのではないかと。	
6	研究実践の内容 (各自の実践)	
	(1) 対象児の実態把握 A児、6年女子。コミュニケーション評価、学習到達度チェックリストによりアセスメント実施。	
	(2) 研究授業について (VTRによる協議)	
	授業場面	ビー玉転がし絵によるポスター制作
	期待する姿	○教師の言葉掛けや実物の提示により活動内容が分かり、自分から教材に手を伸ばし、操作することができる。
	主体的に取り組むための手立て	教材の工夫: 本児の動きを生かして制作につなげられるもの、一人で安全に操作できるもの、音が鳴ることで興味をひくもの、感触が好きなもの。 提示の仕方: 見本のケースを振って音を聞かせ本児が手を伸ばすまで待つ。 言葉掛け: ケースを動かしているときに「コロコロ」と擬音語を言うことで、動きと音のつながりに気付けるようにする。
	(3) グループでの検討 ・ケースの交換に応じなかったのは、中に入っている紙が赤のため模様をつけても色の変化が分かりにくいのではないかと。見えているのではないかと。 ・活動の終わりが分からないようなら、音楽を流し1曲分行うようにしてはどうか。	
	(4) 検討後の変更点と児童の様子 本児が「見る」ことを意識し、教材を提示するようにしたところ、自分から手を伸ばすことがあり、聴覚だけでなく視覚によっても周囲の状況を捉えているのではないかとと思われる様子が見られた。	
	(1) 対象児の実態把握 B児、1年女子。個別の教育支援計画の中で、実態把握を行った。	
	(2) 研究授業について (VTRによる協議)	
	授業場面	ころころ
	期待する姿	○興味関心のあるものに目を向けたり、手を伸ばしたりすることができる。
	主体的に取り組むための手立て	・ボールスライダー、台車でトンネルくぐりなど、色彩を鮮やかにし、視覚的にも興味を持てるようにする。 ・仰向けだけでなく、うつ伏せや支えられての座位など、いろいろな姿勢で取り組むことで、自分で首を起こして見ようとする姿を引き出す。
	(3) グループでの検討 ・ボールスライダーについて、移動距離を長くし、活動の始点と終点を分かりやすくしてはどうか。 ・児童の主体的な活動を引き出すためには、教師が児童から出てきた合図を待って、次の動作につなげることが大切ではないかと。	
	(4) 検討後の改善点と児童の様子	
	改善点	児童の変容
	・ボールプールを設置し、ボールスライダーの待ち時間に遊ぶ。	・ボールに触れて笑顔を見せる。手の動きが活発になる。
	・ボールスライダーの距離を長くし、始点と終点をつくる。	・活動の流れの変化に慣れず、反応があまり見られない。
	・出てくる合図を待って動かす。	・言葉掛けに笑顔や手の動きで応じる。

(1) 対象児の実態把握

C児、5年男子。遠城寺式乳幼児分析的発達検査によるアセスメント実施。

(2) 研究授業について（VTRによる協議）

授業場面	ボールで遊ぼう（ボール回し、ボール乗り、風船タッチ、ボウリング）
期待する姿	○自分から活動に取り組み、活動を長く維持する姿（興味関心の深まり）
主体的に取り組みするための手だて	教材の工夫：1時間に5つの種目を行うことで、飽きないで持続できるようにした。 展開の工夫：学級全体の活動、教師と一緒にいる活動、自分から手を伸ばす活動とい ように、全体から個に移すように授業を展開するようにした。 提示の仕方：友だち（モデル）の様子を見せ、活動に見通しを持たせるようにした。 言葉かけ：一つ一つの種目で称賛することで、次の活動への意欲づけを図った。

(3) グループでの検討

- ・風船タッチでは、立ってバランスを取ることで意識がいつている中で、風船にも意識を持つのは難しいと思う。椅子に座らせるなど自分で姿勢保持できる状態で行ってみてはどうか。
- ・大きなボールでは、マットを下に敷く等の安全面に注意した方がよいのではないかな。
- ・ボウリングでも、椅子に座らせるなど自分で姿勢保持できる状態で行ってみてはどうか。
- ・回数を決めさせるなど、自己決定や選択の場を作るとよいと思う。

(4) 検討後の改善点と児童の様子

- ・風船タッチでは、椅子に座らせて行った。一人で姿勢を保持できることで、手を取っての指導ができるようになった。風船の位置については課題が残った。
- ・ボウリングの時も椅子に座らせて行った。腕に集中することができるようになり、ボールを前に突き出せるようになった。

(1) 対象児の実態把握

D児、3年男子。遠城寺式乳幼児分析的発達検査、学習到達度チェックリストによるアセスメント実施。

(2) 研究授業について（VTRによる協議）

授業場面	光遊び（ツリーの点灯）2回目の実施
期待する姿	○制限のある動きの中で、自分の働き掛けにより周囲の環境が変化することに気づく。
主体的に取り組みするための手立て	教材の工夫：本人のできる動きの中で操作ができるように引っ張る強さやスイッチの固さなどスイッチ教材を工夫する。本人の興味のある光遊びを教材にする。引っ張る部分を本人の好きな発砲スチロールの素材にする。 展開の工夫：明るい状態でスイッチを引っ張ると電球が光ることを教師がやって見せたり、教師と一緒にいたりしながら伝え、十分理解してから教室を暗くして行う。点灯したことが分かりやすい姿勢や操作しやすい位置及び姿勢で行う。本人が気づくように繰り返し行った。 提示の仕方：指に引っかけられる位置に教師が引っ張る部分を提示し、自分から取るうとするのを待つ。引っ張ることで電球が明るくなったこと等を伝える。見てほしい方向を指さしながら伝える。

(3) グループでの検討

- ・できたときには「できた」が実感できるように本人に伝わる方法で褒める。
- ・紐の距離を変えながら試してみる。
- ・スイッチの仕組みを変えることで発展的にスイッチを工夫する。

(4) 検討後の改善点と児童の様子

改善点	児童の変容
・紐の距離を変えながら行う。スイッチを見える場所に置き、紐を短くすることで気づきやすくなる。	・明かりが点灯した時にすぐに気づく様子が見られた。
・明かりが点灯した時に、すぐに褒めるようにした。	・褒めることで笑顔が見られ、「これをすればいい」という気づきに繋げることができた。

7 成果と課題

今年度の校内研究の中で、メンバーそれぞれが対象児の実態を丁寧に把握し、授業を行ってきた。アセスメントの他に担当教師間やグループで検討することで、より実態に即したかわりや授業ができたと考える。また、教師が願う児童の主体的な姿を具体的にイメージしたことで、授業のねらいや手立ても明確になった。協議の中で浮かび上がった課題については、今後も改善しながら授業を進めていきたい。